

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 調剤実績

当第1四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年5月31日) (枚)
三重県	167,335
大阪府	49,071
京都府	50,951
山梨県	30,253
神奈川県	31,143
その他	80,993
合計	409,746

#### (2) 販売実績

当第1四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。なお、当第1四半期連結会計期間から事業の種類別セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報)」に記載のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年5月31日) (千円)
調剤薬局事業	薬剤料	3,129,868
	技術料等	851,415
小計		3,981,284
医薬品卸事業		155,566
ヘルスケア事業		123,078
不動産事業		18,821
合計		4,278,751

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第1四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第1四半期連結会計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年5月31日) (千円)	当第1四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,475,404	31
大阪府	616,897	9
京都府	511,944	8
山梨県	341,891	1
神奈川県	264,214	3
その他	770,932	19
合計	3,981,284	71

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、世界的な金融不安により大きな影響を受けた内外の景気悪化によりやく底打ちの兆しが見えてきたものの、雇用情勢は引き続き厳しい状況にあり、先行きの不透明な状況が続く中で推移いたしました。

このような状況の中で、当第1四半期の連結業績は、コア事業である調剤薬局事業の売上増加が図れたことに加え、医薬品卸事業、ヘルスケア事業、不動産事業とも業績が堅調に推移いたしました。その結果、当第1四半期の連結業績は、売上高4,278百万円、営業利益253百万円、経常利益223百万円、四半期純利益106百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、既存店舗が順調に推移したことから、売上高3,981百万円、営業利益319百万円となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進が進められる中で、売上高199百万円(内部売上高を含む。)、営業利益9百万円となりました。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、昨年12月に運営を開始した介護施設も計画どおり推移したことから、売上高123百万円、営業利益21百万円となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、計画どおりに推移した結果、売上高18百万円、営業利益10百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は11,155百万円となり、前連結会計年度末と比較し1,107百万円増加いたしました。

流動資産の合計は4,816百万円となり、前連結会計年度末と比較して870百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加728百万円によるものです。

固定資産の合計は6,338百万円となり、前連結会計年度末と比較して237百万円増加いたしました。これは主に建物及び構築物(介護施設等)の増加によるものです。

負債総額は8,180百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,041百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加204百万円、及び長期借入金(1年内返済予定を含む。)の増加722百万円によるものです。

純資産は2,974百万円となり、前連結会計年度末と比較して66百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益106百万円、配当金の支払額48百万円等によるものです。この結果、自己資本比率は26.7%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は2,156百万円となり、前連結会計年度末と比較して728百万円増加いたしました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、378百万円となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益207百万円、仕入債務の増加202百万円であり、主な減少要因は、売上債権の増加80百万円、法人税等の支払額144百万円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、41百万円となりました。薬局店舗とヘルスケア事業への投資によるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は391百万円となりました。主な要因は、長期借入金の増加435百万円と配当金の支払額48百万円によるものです。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。